

第 53 号 令和 7 年 12 月 9 日(火)
教育情報紙

発行：島根県教育委員会
(学校教育課)
TEL : 0852-22-6607
Mail : gakkoukyouiku@pref.shimane.lg.jp

記事一覧

- p. 1 全国学力・学習状況調査の「問題を解く」ことから始まる授業改善
- p. 3 全国学力・学習状況調査を活用した各学校の学力育成 PDCA サイクルについて
- p. 4 令和 8 年度 全国学力・学習状況調査（中学校英語）
- p. 6 令和 7 年度 学びの根っこをぐんぐん伸ばすプロジェクト
「学びの基盤に関する調査」（たつじんテスト）の取組事例紹介
- p. 8 次期学習指導要領に向けて

全国学力・学習状況調査の「問題を解く」ことから始まる授業改善

1 はじめに

島根県では「第 2 期しまねの学力育成推進プラン」において、授業づくりを基盤に子どもたちの“学びの質”を高めることを重視しています。

本プランは、子どもたちが授業の中で「できた・わかった・やってみたい」を実感しながら学びを深めることを大切にしています。

とりわけ、重点アクション②「全国学力・学習状況調査を活用した授業改善」では、教員が自ら問題を解くことを通して、学習指導要領が求める資質・能力を具体的に理解し、授業改善の方向性をつかむことをお願いしています。

ここで強調したいのは、全国学調の調査問題には対象教科である国語・算数（数学）に限らず、どの教科にも共通する学びの視点が多く含まれているということです。ぜひ全ての先生方に問題を解いていただき、全教科の授業改善と関連付けていただきたいと考えています。

また、中学校の全ての教科の先生方には、全国学調の問題を参考に評価問題を作成し、定期テストやパフォーマンステストへ積極的に導入していただきたいです。これにより、日々の授業と評価の方向性を一致させ、“指導と評価の一体化”をより確かなものにすることができます。

「第 2 期しまねの学力育成推進プラン」

重点アクション



2 小中学校等の全学年、全教科の教員が、この 1 問を解いてみましょう

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査（小学校国語） 大問 1

「話し合いの様子・記録とインタビュー」

※問題は右の QR コード及び下の URL からご覧いただけます。

https://www.nier.go.jp/25chousa/pdf/25mondai_shou_kokugo.pdf



問題を解いてみて、どのような感想をもたらされたでしょうか。

次のページ「3」では、実際に問題を解いたときに、各教科の先生方が授業改善についてどのような点に気づき、どんな工夫を考えうるかをイメージとして示しています。

国語の 1 問であっても、全学年・全教科の授業に通じる視点が多く含まれており、「自分の授業ではこの力を育てたい」「この活動を取り入れてみよう」など、さまざまなアイデアが浮かんでくるはずです。

3 問題を解いた教員が得られる“気づき”と授業改善へのつながり（イメージ）

気づき① 「発言の役割」が分かると、話し合いの質が変わる

発言には「提案」「理由」「問い合わせ」「まとめ」などの役割があるが、児童生徒は使い分けが難しい。

☆各教科等での授業改善のアイデア

- ・板書に発言の“役割マップ”を作り、視覚化して理解を支援する。
- ・振り返りに「自分の発言の役割」を記述させ、意識化を促す。

気づき② 「聞きたいこと」で終わらず、“深める問い”を育てる

質問が“情報収集”でとどまり、考えを深める問いになりにくい。

☆各教科等での授業改善のアイデア

- ・質問を「事実・理由・比較・視点変更」に分類し、問い合わせの種類をモデル化する。
- ・同じテーマでも“問い合わせの質の違い”を比較し、問い合わせの価値に気づかせる。

気づき③ 「結論」「理由（根拠）」「具体例」等を踏まえた理解や発信は全教科共通

自分の考えを説明する際に、理由と根拠が結びつかない児童生徒が多い。

☆各教科等での授業改善のアイデア

- ・「読む・聞く・書く・話す」すべての場面で、「結論」「理由（根拠）」「具体例」の構造を意識させる。
- ・児童生徒の考えを図示し、弱い部分（理由不足、具体例不足等）を明確にする。

気づき④ 記録を読む力は複合的で、国語だけの力ではない

話し合いの記録は「意図」「流れ」「根拠」を同時に読み取る必要があり、教科横断的な学力と深くつながる。

☆各教科等での授業改善のアイデア

- ・発言の関係を矢印で示す／根拠部分を色付けするなど、図解で読解支援を行う。
- ・理科や社会の記録分析でも、同じ整理方法を活用する。

気づき⑤ 国語的な“話し合いの構造化”は、他教科にも応用できる

「問い合わせの立て方」「根拠の示し方」「説明の構造」は、数学の「筋道立てて説明する力」、理科の「結果と理由づけ」、社会の「資料を根拠に意見を形成する力」など、他教科の論理的思考にも直結している。

☆各教科等での授業改善のアイデア

- ・学校全体で「思考の型」を共有し、縦・横の系統性を高める。
- ・総合的な学習の時間でも共通の型を用い、学びの連続性を高める。

4 おわりに

先生方が全国学調の問題を解き、授業改善に生かすことは、子どもたちが授業の中で「できた・わかった・やってみたい」と実感できる場面を増やします。

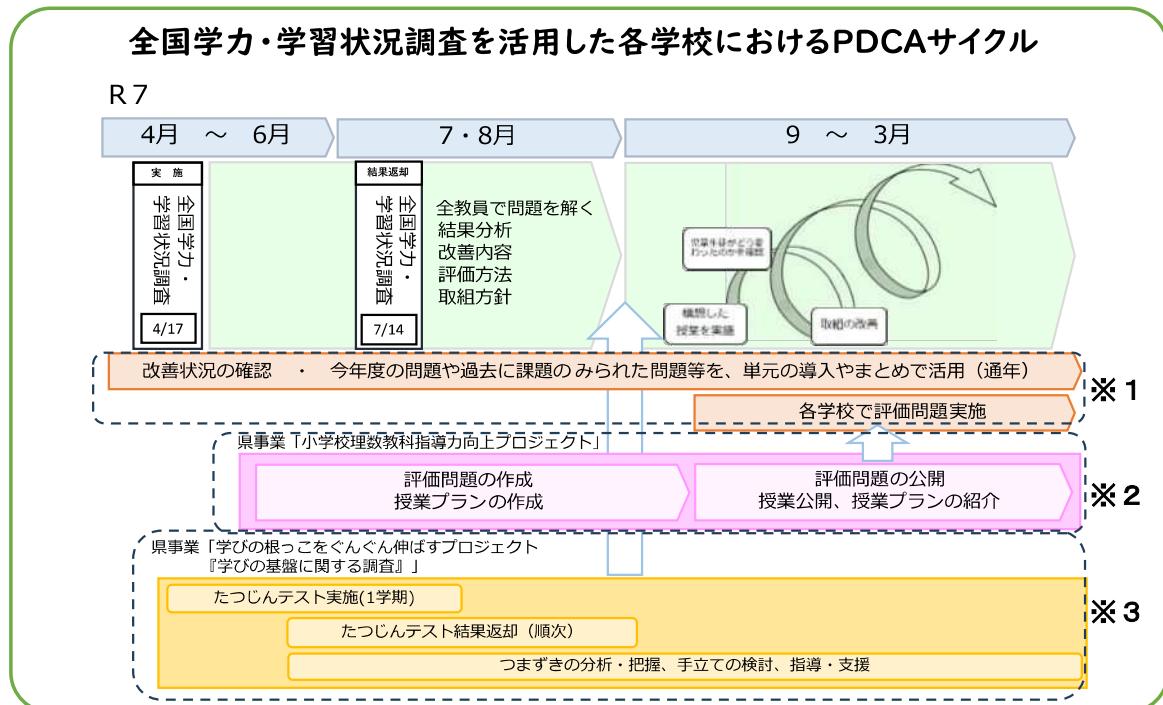
ぜひ問題を解き、校内での気づきや授業改善の工夫を共有するとともに、全国学調の視点を取り入れた評価問題（定期テスト・パフォーマンステスト等）の作成を進め、指導と評価の一体化を図っていただきますようお願いします。

全国学力・学習状況調査を活用した各学校の学力育成 PDCA サイクルについて

～「各学校に応じた評価問題」の活用による授業改善状況の確認～

全国学力・学習状況調査は、児童生徒がどこで・どのようにつまずいているのかを把握し、日々の授業改善にとても役に立つものです。各学校では、今年度の結果を基に分析や協議が進んでいることと思います。県としても、市町村と連携しながら、継続的な改善サイクルを支える取組を進めています。

下の図は全国学調を起点とした学校全体の PDCA サイクルの提案です。



分析→協議→授業改善という流れを整理したもので、特に、改善状況の確認（評価）を通年で行うこと（図の点線囲み※1）が重要です。学校の課題に応じた「評価問題」を活用し、指導と評価を結び付けながら子どもの姿の変容を確かめていくことが求められます。

この改善状況の確認に役立つのが、県の「小学校理数教科指導力向上プロジェクト」です。算数の基礎、既習とのつながり、思考の筋道、友だちの考え方を読み解く力など、教科横断的な視点を含んだ評価問題と授業プランを提供（図の点線囲み※2）しており、全国学調の課題と子どもの実態を結ぶ“橋渡し”となります。評価問題は CBT システムにも搭載し、4～6 年生が端末で取り組めるほか、授業が終わった単元でも「力試し」や補充として活用できます。令和 7 年度は算数、令和 8 年度からは算数・理科の問題を順次公開予定です。

また、たつじんテストを任意で実施している学校では、その結果をつまずきの把握や改善の材料として活用（図の点線囲み※3）できます。

県では、市町村と連携し、調査結果を基にした授業改善の取組を継続的に確認・支援していきます。各学校におかれましても、図に示した流れを参考にして、改善状況の確認をお願いします。

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査の結果分析を踏ました「授業改善動画」URL
全国学力・学習状況調査結果について、県としての課題の分析と、その課題に対する授業改善動画を配信しています。各学校における分析、授業改善の参考にご活用ください。

小学校国語



小学校算数



小学校理科



中学校国語



中学校数学



中学校理科



令和8年度 全国学力・学習状況調査（中学校英語）

— CBT実施に向け、備えるべきポイント —

令和8年度の中学校英語の調査は、1人1台端末を使ったCBT方式で、「話す・聞く・読む・書く」の全技能で実施されます。特に、生徒が動画視聴→発話→録音、キーボードで書くなどの操作に慣れていない場合、調査に入る前にまずは恐れがあります。

生徒の英語力を正しく發揮させるため、日常授業で端末を使った活動を当たり前に行うことが必要です。

※令和7年8月29日付け事務連絡「令和8年度全国学力・学習状況調査（中学校英語）のCBT実施に係る対応等について」もご参照ください。

■ 英語科が必ず取り組む3つの観点

- ① 【話すこと】録音を伴う活動に慣れさせる
 - ・動画視聴等 → 英語で話す → 録音
 - ・短時間でも継続して経験させる
- ② 【書くこと】キーボード入力で英文を書く練習
 - ・単語・短文の英語タイピング
 - ・端末で英作文を行う機会を確保
- ③ 【MEXCBT】実際の問題にふれる
 - ・授業でMEXCBT英語問題を使用
 - ・eポータル（まなびポケット等）で実際に起動
 - ・県教委作成の問題一覧（Excel）を参考に授業・家庭学習等での活用の計画化

MEXCBT を活用するメリットは主に次の 4 点です。

1. 生徒一人ひとりに応じた「個別最適な学び」が可能になる
2. CEFRに基づき、英語力をより客観的に把握できる
3. パフォーマンステストとして活用できる
4. 多様なテーマ・題材を活用した授業づくりに役立てることができる

文部科学省のホームページから、MEXCBT の問題が実際の授業で具体的にどのように活用されているか、事例を見ることができます。家庭学習との連携や、段階的な活用の工夫などが紹介されており、ご自身の学校での授業改善のヒントが得られますので、ぜひご参照ください。

● MEXCBTを活用した英語「話すこと」「書くこと」の力の強化(中学校)

MEXCBTに搭載された「話すこと」「書くこと」を中心としたCBT問題の活用事例を掲載します。

- [MEXCBTを活用した英語「話すこと」「書くこと」の力の強化 \(PDF:1.39MB\) !\[\]\(8c4dca64662d21542001ca0ed7eeb688_img.jpg\)](#)
- [CBT問題の活用事例](#)



https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503_00010.htm

■ 授業ができる “短くても効果がある” 英語科教員の行動チェック

- 録音を伴う「話す」活動を行った
- 端末で英文入力を行った
- 画面で英文を読む活動を取り入れた
- 端末で音声を聞く活動を行った
- MEXCBT の問題を授業で扱った

■ 最後に

「機器操作に慣れた生徒」を育てることが目的ではありません。生徒が自分の考えを英語で伝え、表現する力を確実に育成するために、今日、明日の授業からできる一歩を、始めてください。

令和7年度 学びの根っこをぐんぐん伸ばすプロジェクト 「学びの基盤に関する調査」(たつじんテスト) の取組事例紹介

今年度から本格実施している本事業では、8月に県内3か所で研修を行い、調査実施校の先生方に参加していただきました。この研修では、たつじんテストの開発者である今井むつみ先生による講義と演習を行いました。

演習では、1学期に各学校で実施した、たつじんテストの結果を分析し、子どものつまずきに対しどのような支援ができるのかについて先生方に検討していただきました。この内容を「たつじんテストWebシステム」に登録しています。

現在、このWebシステムには、先生方が入力された具体的な事例が180件以上登録されています。登録された内容は、下のURLもしくは二次元コードから閲覧できます。日々の授業改善にご活用ください。また、新たな事例につきまして、随時、登録をお願いします。

＜たつじんテストWebシステム＞

<https://41f09d97.viewer.kintoneapp.com/public/def0000bcb5efab92bd5c7f70941126609a4b68fa699756898f04a72240bbac>

登録いただいている事例の一部を紹介します。



たつじんテスト
Webシステム

学年	教科	たつじんテストの大問タイトル
小学校3年生	国語	うごきのことば 〈つまずきの事例〉 <ul style="list-style-type: none">・自分の言いたいことを上手に表すことができない。・文章の要点理解が難しい。
小学校3年生	国語	あてはまることば 〈つまずきの事例〉 <ul style="list-style-type: none">・言葉を知らない（聞きなれていない）→世の中で使われることが減ってきてているのではないか・現代の社会で使いにくい、合わない言葉もある（例）手が足りないなど
小学校4年生	算数	かずの大小 〈つまずきの事例〉 <ul style="list-style-type: none">・自然数の概念はあっても、分数の概念が定着していない。・分数について、量感を伴って理解をすることができていない。
小学校5年生	国語	みぎとひだり 〈つまずきの事例〉 <ul style="list-style-type: none">・自分の視点から見る左を、主体の左手と捉えている。

小学校 5 年生	算数	かたちのおりかえし 〈指導・支援の内容〉 <ul style="list-style-type: none">・図形のイメージの心的操縦に多くのつまずきが見られた。・頭の中で図形操作ができないことや、見える部分から見えない部分を推測することが難しい。
小学校 6 年生	算数	ずけいのかわりかた 〈つまずきの事例〉 <ul style="list-style-type: none">・直感的に回答している。・線対称、点対称な図形といった既習の図形としてとらえていない。・2つの図形を見比べたとき、図形を頭の中で操作する動的なイメージを持っていない。・図形の性質に着目できていない。
中学校 1 年生	社会	あてはまることば 〈つまずきの事例〉 <ul style="list-style-type: none">・基本的な語彙が身に付いていない。・問題文で問われていることが分からぬ可能性がある。・教科書の文章の要点をつかむことができない可能性がある。
中学校 1 年生	数学	割合 〈つまずきの事例〉 <ul style="list-style-type: none">・百分率（歩合）で答えることはできるが、割合、百分率、歩合の表現の違いが理解できていない。 →歩合から百分率に、百分率から歩合に直すことが難しい。
中学校 2 年生	国語	にていることば 〈つまずきの事例〉 <ul style="list-style-type: none">・その言葉を知らない。（生活経験の中で使われていない）・言葉を聞いたことはあっても、自分の中で意味と関連づけることができない。・文脈から考えることができない。（推測できない）・選択肢の中から、取捨選択することができない。
中学校 3 年生	国語	あてはまることば 〈つまずきの事例〉 <ul style="list-style-type: none">・慣用句が身についていない。・文章や会話の内容が理解できぬ可能性がある。

以下の URL からダウンロードしてください。

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/mext_00003.html

教育課程企画特別部会「論点整理」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/mext_00010.html

次期学習指導要領に向けて

令和 6 年 12 月 25 日に、文部科学大臣から中央教育審議会に対し、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問があり、令和 7 年 1 月から中央教育審議会教育課程企画特別部会において検討が進み、同年 9 月 25 日に教育課程企画特別部会「論点整理」がまとめられました。

この「論点整理」をもとに今後、総則・評価特別部会をはじめ各教科等の部会で具体的に検討が進められることになります。本稿は、教育課程企画特別部会「論点整理」(令和 7 年 9 月 25 日)を手元に置きながらご覧ください。(上記のリンクから資料をダウンロードできます。)

ポイント 1 どんな学校（社会）をめざすのか …p4

「第一章 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方」について

『生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む』ことを目指しています。

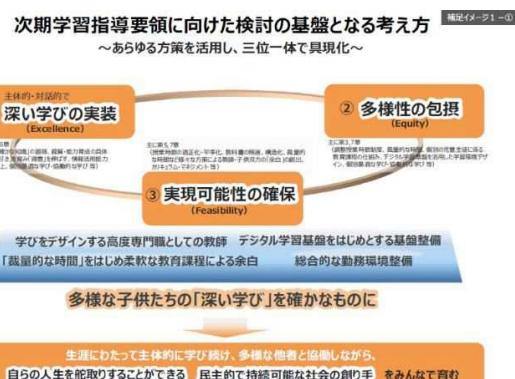
- 「よりよい学校教育」を通じて「よりよい社会」への移行を図る
- 「好き」を育み、「得意」を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体への動機付けを図っていく取組と、当事者意識を持って、自分の意見を形成し、多様な他者と対話と合意を図る取組を同時に進める

ポイント 2 どのようにして実現するのか …p3～5

「第一章 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方」について

『多様な子供たち②の「深い学び」①を確かなものに③』することを通じて実現を図ります

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実装 (Excellence) は、現行学習指導要領が目指している、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図るもの（第一の方向性）
- ② 多様性の包摶 (Equity) は、多様な個性や特性、背景を有する子供が多くなっている実態に向き合うとともに、こうした多様性を個人及び社会の力に変える観点から、一人一人の意欲が高まり、可能性が開花し、個性が輝く教育の実現を目指すもの（第二の方向性）
- ③ 実現可能性の確保 (Feasibility) は、第一・第二の方向性の両立を支え、実現可能とする観点（第三の方向性）



ポイント 3 どんなところが変わるのがわかるのか（検討されているのか）

1. 「第二章 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方」について

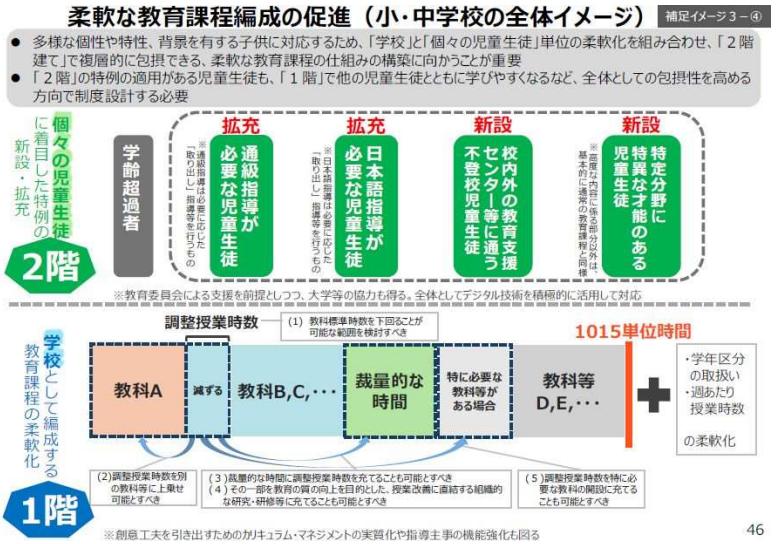
て

- ① 学習指導要領の目標・内容が構造化・表形式化・デジタル化されます。…p13. 14
※これまで通り紙 (PDF 形式) での提供も行われる予定です。
- ② 「学びに向かう力、人間性等」が再整理されます。…p18
- ③ 「見方・考え方」が再整理されます。…p 21
- ④ デジタル学習基盤を前提とした改訂の方針が打ち出されるとともに、「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学び」の整理が行われます。…p24

2. 「第三章 多様な子供達を包摂する柔軟な教育課程の在り方」について

多様な個性や特性、背景を有する子供に対応するため、「学校」と「個々の児童生徒」単位の柔軟化を組み合わせ、「2階建て」で複層的に包摂できる、柔軟な教育課程の仕組みの構築が検討されています。 …p46

- ① 「調整授業時数制度」が創設されます。(1階部分)
- ② 個別の児童生徒に係る教育課程の編成・実施の仕組が新設・拡充されます。(2階部分)



46

3. 「第四章 情報活用能力の抜本的な向上と質の高い探究的な学びの実現」について

- ① 探究的な学びの基盤となる情報活用能力が整理されました。…p53
 - 探究的な学びの充実を図るために、情報活用能力が各教科等での探究的な学びを支え、駆動させる基盤と位置付けられます。…p59
- ② 小学校では総合的な学習の時間に「情報の領域（仮称）」が付加、中学校では「情報・技術科（仮称）」が創設されます。…p60
- ③ 「学習の基盤となる資質・能力」として示す資質・能力は、「言語能力」「情報活用能力」に絞る方向で検討されています。※「問題発見・解決能力」は、総合の目標等や各教科等の学習の過程で重視されることになります。…p61

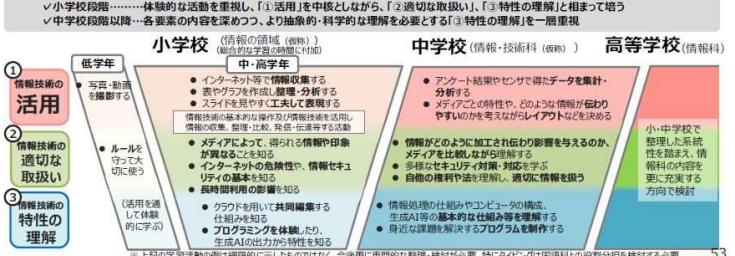
探究的な学びの基盤となる情報活用能力の整理

補足イメージ4-③

1. 情報活用能力を構成する各要素の関係を以下のように整理すべき



2. 上記整理に基づき、おむね以下のようないmageで発達段階に即した学習活動を検討すべき



53

4. 「第五章 『余白』の創出を通じた教育の質の向上の在り方」について

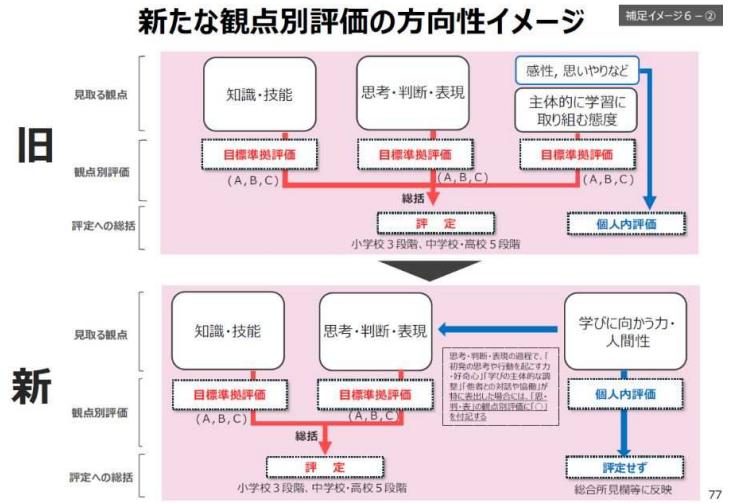
- ① 週あたりのコマ数の平準化の促進…p65
 - 年間を通じて平均的に各教科等の授業時数を配当することを前提とする趣旨の学習指導要領解説を改め、特定期間に集中して授業を実施できること等が一層明確化されます。
- ② その他、「調整授業時数制度」により教師と児童生徒の双方に「余白」を生み出すことや、学習指導要領の構造化・表形式化・デジタルを一体的に進めることによるユーザビリティの向上、教科書内容の精選等も検討されています。…p65, 66

5. 「第六章 豊かな学びに繋がる学習評価の在り方」について

① 「主態」評価の改善 …p76, 77

- 観点別評価の評価観点として存置しつつも、教科毎に「目標準拠評価」として行うのではなく、教育課程全体を通じた「個人内評価」として行う方法に改められる方向です。
- 教育課程全体を通じた個人内評価を基本としつつも、思考・判断・表現の過程で、「学びに向かう力・人間性等」の要素のうち、具体的に見取ることができる要素※が特に表出した場合には、「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記する方向で検討されます。

新たな観点別評価の方向性イメージ



※「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」「学びの主体的な調整」「対話と協働」

② 中核的概念、評価の頻度 …p78

- 中核的な概念の具体的な粒度や示し方、学習評価については、今後検討していく中で具体的な整理を行う予定です。

6. 「第七章 その他諸問題提起された事項の在り方」について

① カリキュラム・マネジメントの在り方について …p81

- 全ての教師が当事者となり、カリマネを教師にとって意義を感じられる日常の取組とするため、学校がそれぞれの実態に応じて「何のために（目的）」「どのように（手段）」カリマネを行うのかを構造的・具体的につかみやすい示し方となるよう検討が進められます。

② 特別支援教育 …p94

- 通級による指導を利用しやすくするために、本人・保護者及び専門家の意見を踏まえつつ、これまで以上に学校長の判断で通級による指導が柔軟にできるようにする方策が検討されています。

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒が通級による指導を利用する際の教育課程の見直し（イメージ）



③ 幼児教育 …p97

- 幼稚園教育指導要領においても、学習指導要領との連続性を表形式やデジタルを活用していく予定です。
- 子供それぞれの興味・関心や一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出す観点から、幼児教育の「環境を通して行う教育」と小学校以降の授業改善の取組について相互理解が図られるよう、幼小中高の指導方法の趣旨の一貫性を明確にしていく予定です。

